

普及活動情勢報告（平成18年8月分）

安芸農業振興センター 農業改良普及課

情勢報告

ナス18t / 10a 取り目指して…第1回地区座談会開催！（中芸）



18t 取りに向けて勉強中！

8月上旬、中芸地区を各集会所単位に区切り、ナスの栽培技術に関する地区座談会を開催した。18t / 10a 取りを目標に掲げ、各自が 反収、 収量が伸びない原因、 問題解決のための取り組みを把握する重要性を説明した。また、前作で問題となった収量低迷の原因と対策や、この時期特に留意すべき水管理(根張り、樹づくり)とコナジラミ対策について説明した。

普段の研究会活動では見かけない女性や高齢者も含め、合計 77 名が参加し、各地区で肥培管理や日中の温度管理等について熱心な議論がされた。今回は、10月上旬に整枝・摘葉技術とすすかび病対策を議題の中心にした会を開催する予定である。

年に一回、経営内容の確認と、次の作の改善目標を立てましょう！



品目、コスト削減、資金繰り、ライフプラン、考えることはいっぱい

8月15日、安田町を皮切りに、毎年恒例となった改良資金返済中の農家39名に対する経営カウンセリングを開始した。普及指導員と営農指導員からは、決算書から読み取れる経営状況 防寒対策・病虫害対策 個人毎の月別収量などについて、それぞれ農家に確認しながら、実態や考えを聞き取った。さらに、経営状態の良い農家に対しては、次のステップとして営農生活設計表（ライフプラン）を立てる事をお勧めした。

今年で3回目となるが、第三者からの客観的な助言や、個人ごとの課題解決への栽培指導など、農家には除々にカウンセリングを受けるメリットを感じ始めてくれているようだ。9月中旬までの間に、JA支所単位で引き続きカウンセリングを開催していく。

芸西のブルースター、ブランド化事業に取り組みます



今年の中心品種「ピュアブルー」

芸西が生産量日本一を誇る花「ブルースター」。しかし近年、単価安傾向にあり、生産者の意欲も低下しがちだった。

この花をもっと知ってもらい、もっと使ってもらうために、県産品ブランド室のブランド化事業に応募することを部会に提案した。

準備期間が短く、1次募集には間に合わなかったものの、ブランド室からの呼びかけで2次募集に応募。この秋から事業に取り組むこととなった。

この取り組みにより、生産量日本一に向けて生産に励んだときの気持ちをもう一度思い出して、「楽しい農業」を実現してほしい。

東川、畑山支部ゆず研究会が開催されました。



家畜糞堆肥のサンプル紹介

東川支部は、7月19日に35名、畑山支部は24日に30名が集まり、午前中各圃場を巡回し、午後検討会を行った。まず、今年の作柄を確認し検討会に入った。振興センターからは、これからの防除で重要な「黒点病」と「ミカンサビダニ」の発生要因の説明と隔年結果に有効な土づくりのために家畜糞堆肥のPRをサンプル展示し利用を推進した。今年は表年にあたり着果は多いものの、春先の低温で生育は遅れており、こはん症の発生もみられた。「これから暑さが厳しくなるが体に気をつけて管理作業を行ってください。」で会を終えた。

川北地区園芸研究会の反省会



激しい夕立にもかかわらず、熱心に話を聞く参加者。

8月1日(火)川北地区公民館にて、川北地区園芸研究会の反省会が開催され、約20名のナス生産者が参加した。

本園芸年度の反省点としては、重油の高騰やコナジラミ類の蔓延等が挙げられた。そこで振興センターからは、コナジラミ類を中心とした来作の病害虫防除体系や、収量を上げるための樹作りについて説明を行った。また、10a当たり18tの収量を得るための月別目標収量を示し、個々の生産者が自分の収量を把握した上で、目標を持って生産に取り組むことが必要であると話した。

参加者からは、来作も継続して講習会を行って欲しいという要望も聞かれ、最後は全員で「収量18tを目標に、まずは年内収量4.5tを目指して頑張ろう」と拳を挙げて締めくくった。

ナスの高品質・多収栽培の第一歩は根づくり、樹づくりから



こまめに手灌水を行う生産者

JA室戸支所元なす部会では8月中旬から本格的な定植が始まっているが、8月15日、振興センターはJAと連携して部会員に根づくり、樹づくりを目的とした栽培講習会を行った。

その内容は、特に定植後、根のスムーズな活着とその後の根張りを良くするために、苗質に応じた灌水量や高温対策等を中心に説明した。部会では今年より、プラグ苗からポット苗の購入に切り替わり、これまで以上に灌水に気を配る必要がでてきた。部会員からは「定植後1ヶ月は手灌水をやる」という声もあった。

定植の前進化、青枯病対策の徹底等により部会の平均収量は年々増加傾向にある。今年は「根づくり・樹づくり」技術と防除体系を確立することで更なる収量アップを図る。

地産地消推進事業における供給システム検討会の開催



地域食材の生産・加工、直販活動、また、地域資源を活かした食農体験交流など、地域づくりにつながる地産地消活動に取り組んでいる、奈半利町、田野町、北川村の生産・加工、交流、流通・販売、消費の１１の組織関係者を一堂に会し検討会を開催した。はじめに、活動の情報交換をおこない、連携して取り組める活動などを検討した。今後は、各組織の活性化を図りながら、連携活動として、特産品づくりと各地区のお国自慢マップづくりによる地域全体での都市からの交流人口の増加が図れるように支援する。